

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801297
法人名	有限会社さつき福寿サービス
事業所名	グループホームさつき
所在地	福岡県福岡市東区奈多3丁目4-16
自己評価作成日	平成23年12月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月25日	評価結果確定日	平成24年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄りに馴染み深い日本家屋と周囲の静かな自然を生活環境の一つの重要な背景として、少人数(8名)の共同生活の中で、認知症を抱えながらもその人らしさを最後まで尊厳の中に保ち、自らの意思と能力に応じた役割と存在意義を見出し、時に人の役に立ち時に人を慰め励まし、互いに支え合いながら自分に最もふさわしい時間を送ることの出来る、そのようなグループホームに近づくよう日々、職員はそれぞれの目標を立てて自己実現の一環として介護の仕事に邁進すると同時に、人生幸福の実現が他者支援の実践と分かちがたく結ばれていることを自覚し、自己研鑽と自己向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「生の尊厳」「自立の支援」「日々の研鑽」を理念とし、開設して9年目を迎える23年度は、新たなコンセプトや業務上の改善点を具体的に示し、職員との共有認識を図るべく取り組んでいる。また、介護日誌から生活日誌へと改められた個別の記録には、管理者により、日々異なる視点で当ホームの自慢できる点が記載されており、職員のモチベーションの確保や意識の向上を、更なるサービスの質の向上へと導いている。日本家屋を改築された生活空間では、入居者と職員の程よい距離感の中、1ユニット定員8名での暮らしが営まれており、心身機能の維持活用や自尊心の回復に向けたさりげない支援が行われ、居心地の良さや安心感がうかがえる。近隣の他事業所との交流・連携も深まりつつあり、今後の福祉拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が安心して生活できる昔ながらの日本家屋のよさを活かしながら、「自立支援」、「生の尊厳」、「日々の研鑽」の基本理念を職員会議等で常に確認しながら実践に役立てている。	(生の尊厳)(自立の支援)(日々の研鑽)を柱とする3項目の理念とともに「さつきの誓い」を掲げている。管理者は理念のもとに原点に戻り、更なる高みを目指していくための新たなコンセプトを具体的に示し、職員との共有認識を育みながら、実践に結び付けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園とは園外行事で行き来し、地域のデイサービスには音楽会等に参加している。買物の途中で出会う近隣の住民とは気軽に挨拶を交わしている。	高齢化が進む近隣の奈多団地の夏祭りに参加したり、運営推進会議には団地居住者の参加も得ている。近隣のデイサービス事業所や保育園との交流、また、町内のラジオ体操の場所(駐車場)やラジカセを提供する等、自然体でのつながりがある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や公民館館長等の地域支援者に対して実際どのようにさつきで認知症状に対応しているかを(プライベートに配慮しながら)説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域支援者と共に、地域包括支援センターや他の事業者、行政担当者等と交えて、運営内容について可能な限り情報提供している。	家族代表、民生委員、地域住民、公民館館長、消防団、近隣デイサービス管理者、市職員等の参加を得ており、様々な視点からの意見や提案を頂いている。また、日常行われているレクリエーションに参加者に体験してもらう機会もあった。近隣の他施設との連携による開催も予定されている。	運営推進会議の定期開催に向けた働きかけを継続しながら、家族や地域との連携を深める機会としても活用されることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回必ず市の高齢者福祉課の出席を求めている。また防災工事等では高齢者施設課と協議する中でさつきでの日常の認知症支援の実際について話し合っている。	運営推進会議への行政担当者の出席を得ている。また、ケースワーカーや関係部署との協議を行いながら、連携を深め、運営へ反映させている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険回避の名目での身体拘束は当事業所では過去現在存在しない。エスケープが懸念される際の玄関施錠は家族了解のもとに実施した経緯が過去あるが現在は簡易ロックとしている。	一般家庭同様の施錠が行われているが、内側から開錠可能となっている。内部研修や報告書による伝達を図り、特に言葉による抑制について意識を高めながら、職員間の共有認識を図っている。暮らしを支える介護力を念頭に置き、様々な視点から認知症へのアプローチを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修等の場で高齢者虐待防止について学習し、身体のみならず言葉や態度での虐待を「しない、見逃さない」ことで意思統一を図っている。		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者の入居者に成年後見人(行政書士)がついたことで実務面を中心に研修を重ねている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人との連携を図りながら、支援を行っている。これまでに、運営推進会議において、制度についての説明を行った実績もあり、情報提供も行われている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居契約書、重要事項説明書、運営規程を詳細に説明する一方で、入居後は家族としてどのように認知症に関わっていただきたいかの要望を伝え、最後に署名捺印をいただいている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や介護計画説明の場で利用者側、施設側の双方が忌憚なく意見を述べ合い、よりよりサービス実現に向けて協力体制をとっている。	運営推進会議への参加や、日常的な来訪の機会も多く、家族との関係作りに努めている。敬老会等の行事の際には、家族同士の交流の機会もあり、率直な意見交換や意見の表出の場面としている。毎月、個別の便りと写真、介護計画、評価を家族に送付し、情報を共有している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやサービス担当者会議の場で、利用者に関することのみならず、運営に関することでも積極的に意見を発表できるようにしている。	昨年より、職員の家庭状況に配慮し、日勤帯の時間内にミーティングを行っている。日常的に意見交換を行い、意見や要望の聴取に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとに個々の反省と目標を意識付けし、日常の業務内容に反映するとともに、給与・賞与の評価に算入している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	応募者には介護に対する誠意と動機を重要視する面接を行い、採用後施設職員となった社員に対しては目標と課題を設定し自分自身が常に向上するように促している。	入居者や家族の意向も鑑み、人間性を重視した職員採用を行っている。また、家庭状況に応じた勤務形態への配慮等が行われている。管理者は、教育者としての経験も活かしながら、個別のモチベーションの確保や対等な人間関係の構築に努めている。希望休や有給の取得、産休、育休から復帰に向けた配慮を行い、働きやすい職場環境作りに努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼や職員会議では高齢者だけに限定することなく同僚や友人、家族に対する人権尊重の意識を高めるよう働きかけている。	理念に関する研修の中では、様々な視点から、自立支援や尊厳の保持について学ぶ機会を持ち、認知症ケアに携わる者として、また、入居者はもとより、日常の中でも権利擁護についての意識を高めながら、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な経歴を経て社員となった個々の職員にはそれぞれの資質や動機に即した業務内容を提示し、具体的な目標達成のスケジュールのもと自己成長の為に日々の努力を呼びかけている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のデイサービスとは可能な限り交流の機会を設け、運営推進会議には当該事業所の参加を求め地域の福祉向上に協力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人と家族がグループホームに対して何を求めているのか、その達成に向けては何を優先して考慮すればよいかを入念な聞き取りを経てプラン化すると同時に信頼関係を構築している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に居宅事業所や保護課担当者を変えて、利用者・家族のアセスメントを詳細に行い、可能な限り入居初日から自立支援のサービス開始が出来るように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅や入院を経てグループホーム入居へ至ったプロセスを詳細に検証・把握し、必要な支援の優先順位を決定し的確なサービス提供を心掛けている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの存在価値の一つである、「なじみの関係にあるマンパワーの支援によって出来ることをしながら自らの役割を果たす」という理念のもと、ともに暮らす生活者として日々を送っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の暮らしぶりを詳細に把握し、家族としてどうしたいのか、何が出来て何が出来ないのかを具体的に評価し共に利用者を支える環境要因の一つとして協同するようにしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとより町内会の知り合いや知人の来訪も受け入れて、長い年月生活していた環境を可能な限り引継ぎ、より実生活に即した自立支援となるように考慮している。	町内会で顔馴染みであった近所の方の来訪を受けたり、近隣の奈多団地の夏祭り等への参加を通じて、これまでの関係性の継続や、新たな関係作りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	認知症を抱える利用者一人ひとりがそれぞれの 能力に応じた役割を果しながら、様々な場 面で「自らの生活の主人公」となれるよう、働き かけに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居などの場合は、病院に見舞い に出向いてその後の利用者の様子や家族支 援に配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	障害のあるなしにかかわらずその人らしい生 活を実現できるように施設の理念として謳い、 日々の実践の場でも利用者の気持ちに寄り添 い何を求めているかを敏感に察知するようし ている。	生活日誌には、客観的情報とともに、言葉や反応 等の情報についても視点を持った記載が行われ ており、職員間で共有しながら、思いや意向の把握に 結び付けている。これまでの生活歴やライフスタイル 等の情報も収集されており、その人らしさの把握 に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	グループホームに入居するまでの経過や経歴 を出来る限り情報収集し、なるべくそれまでの 生活習慣や価値観を維持できるような介護計 画を立てている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日内変動、周期変動等の心身状態を仔細に 観察記録し、安心できる状態のもと、その有す る能力を活かせるような自立支援に取り組ん でいる。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	入居時のアセスメント(課題把握)をもとに、適 宜スタッフと利用者、家族とカンファレンスを行 い、介護計画を立案、提示する一方で、月末 には実践と評価を家族の下へ送付し、共同し て計画の運営に役立てている。	本人の視点を大切に、プライドや生きがい、趣味 活動の継続、家族の役割等について、個別、具 体的に示された介護計画が作成されている。毎月、昼 間・夜間・健康についての詳細な評価が行われ、現 状の確認と見直しの必要性について検討している。 介護計画及び評価を、毎月家族に送付している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況はもとより、家族の支援や受 診外出等についても適宜記録に残し、状態変 化の「原因と結果、その対策」の3次元で評価 を行っている。		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一様にレク活動に取り組むのではなく、得意や好き嫌いに配慮し、居室で「一人カラオケ(職員付き添い)」をしたり、紙芝居を演じたり、歌を唱和したりして、個別のニーズに細かく対応するようにしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周囲の畑地には季節の作物が実り、四季折々の草花が散歩の道すがら目を楽しませてくれる静かな生活環境を活かし心身状態の安定につながるよう戸外活動に取り組んでいる。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には係り付け医師から当主治医への紹介状を必ず準備し、医療支援が途切れなく継続されるようにすると共に、特殊診療の場合は受診先へ情報提供を的確に行うようにしている。	入居時に、かかりつけ医について確認している。また、専門医も含む複数の協力医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて、医療機関へ暮らしの状況等に関する詳細な情報提供が行われている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は生活支援の一分野としての健康管理に留意し、適宜受診や看護を通じて健康に毎日過ごせるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時は家族の要望に照らして主治医の指示により協力医療機関(輝栄会病院等)を受診するとともに、入院に際しては看護添書や紹介状等の情報の提供を迅速的確に行うようにしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りの要望がある場合は、本人と家族全体の意向を充分聞き取りすると共に、主治医と施設スタッフが協議を重ねて、終末期に至るまでの全プロセスについて意思統一して事態に当たるように意見調整を図っている。	これまでに看取りの実績もあり、本人、家族の意向や医師の判断のもとに話し合いを重ね、方針を共有している。日々のかかわりの中で、本人の思いや意向の把握に努め、職員間で共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアルに定める他に、実際に心肺蘇生等の実習を通じて、冷静沈着に非常時に対応できるように訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、特に夜間の時間帯では消火、通報、避難、誘導等の一連の動作が遅滞なく実行できるように日頃から訓練を積んでいる。	既存の日本家屋を改修して運営されており、運営推進会議での協議や消防署のアドバイスを受けながら、壁材の変更やスプリンクラーの設置等、防火対策に取り組んでいる。避難訓練では、近隣に居住する民生委員の参加、協力を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を抱えていても一人の生活者としての尊厳や誇りを決して傷つけることなく、あくまでも人生の先輩として敬う気持ちを持ちつつ、日常的に接するように話し合っている。	自己選択、自己決定の場面を支援していくことや、持てる力を奪わないこと、生活習慣の継続等を支援し、個々人の尊重を大切にしている。内部研修では、ケアマニュアルに基づき、自立支援や尊厳の保持について意識を高めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮や気後れで自己主張が充分でない利用者にはとくに丁寧な言葉かけや傾聴を通じて、「快・不快」の感情の根本にあるものは何かを見極め自ら決定できるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態像を詳細に把握し、その日のペースや体調にも配慮し、一日を最も快適に過ごせるようにチームワークで対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間は季節に合った衣類を選び、外出や行事の際は改まった服装を心がけ、よそ行きの化粧や髪型に整えハレの気分を味わえるように支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや誕生ケーキの飾りつけなど出来る利用者には積極的に声かけて手伝ってもらい、また食材の買出しには近くのスーパーまで一緒に出向いて商品を選んだりレジで計算したりしている。	スーパーでの食材の選択からレジでの支払い、食材の下ごしらえ等に、個別に応じた力を発揮する場面がある。また、時にはホームに必要な分量を検討してもらおう等、積極的に関わって頂いている。家庭菜園で野菜作りでは、収穫の喜びや食卓での味わいを楽しんだり、誕生日には外食に出かけ、他のお客さんとハッピーバースデーを合唱したこともあった。「食」のプロセスへのかかわりや、楽しむための支援が充実している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1500* ₀ を目安に栄養士の作成した日々の献立に基づいて、新鮮で安全な食材を使って消化によく栄養バランスのとれた食事を提供し、塩分や水分等の制限のある場合は指示に従って個別に対応している。		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは歯磨きと入れ歯洗浄を徹底して行い、口の中の汚れや臭いの原因を絶つようになっている。また訪問歯科のサービスによる歯石除去や口腔衛生を取り入れている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄を大きな生活目標の一つに掲げ、紙パンツ パッド併用 布パンツという自立のためのプロセスをスタッフ全員で支援する一方で、その日の体調やサイクルに合わせて臨機応変に対応している。	現状として自立している方も多く、これまでは退院後の紙パンツから布パンツへの移行を支援した事例もある。排泄状況を把握し、個別のニーズに応じてトイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は不穏や徘徊の遠因となりうることを理解し繊維質に富んだ食事内容や適度の水分補給、また体操や運動を通じて腸内運動の活発化を促している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は往診や外出、また家族面会に配慮して午前中に実施しているが、汚染時の場合は必要に応じてシャワー浴等を施行している。	週3回の基本的な入浴日の設定はあるが、ほぼ毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟に対応している。希望や必要に応じて、個別のソープの使用に対応し、近郊の温泉施設での入浴を楽しむこともある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為に日中は極力離床を促し共有スペースで過ごすように働きかけているが、体調に応じて適宜居室でベッド臥床して安静を得る場合もある。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は利用者の手の届かない棚の上に保管し、担当者が残薬や薬切れをチェックすると共に、その効用、副作用等についてスタッフ全員で知識を共有するようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の趣味や嗜好に配慮しつつ、レクや手芸等の活動において一人ひとりが存在意義を感じる事の出来るような働きかけを行っている。		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は身体的な運動を増やすのと同時に精神面でリフレッシュ作用をもたらすという観点から近所の散歩やドライブ、また個別の食事外出等に取り組んでいる。	天候や希望、ニーズに応じて、戸外に出る機会の確保に努めている。また、家族の来訪も多く、散歩や買い物、外食等に出掛ける際には連携を図っている。個別の外食やスーパーでの買い物、季節の花見、敬老会への出席等に出かけている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理の預り金の他に、家族了解のもと利用者本人持ちの財布に数百円を入れて外出等の場合は小額の買物に使っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏が続くような場合は家族に電話に出てもらいしばらく話すと落ち着くこともあり、また緊急以外の場合は手紙や訪問で家族や知人、旧友とのふれあいの場を作るように支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	防災改修工事を機に、内装を一新し簡素な中にも温かみを残し、トイレや食堂、リビング等の掲示は見やすく親しみのあるものを工夫し、共同で製作した作品やクラフトは随所に飾って和やかな雰囲気作りに役立っている。	日本家屋を改築して運営されており、施設感を感じない、家庭的な雰囲気となっている。リビングのソファや廊下のベンチ、食卓等、その時々に応じた寛ぎの場所も確保され、入居者と職員の共同作業により作成されたクッションや膝掛けが、暮らしに潤いをもたらしている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	物理的な制限のあるスペースの中でも、リビング以外にも廊下ベンチや食堂の椅子等でもその時の気分に合った時間の過ごし方が出来るように働きかけをしている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた家具や調度を持ちこみ、家庭の延長として居室で生活が出来るように促すと同時に、レク等で製作した作品やカレンダーを居室内に飾りつけて季節感や生活感を出すようにしている。	天窓が設置されている居室もあり、既存の建物の間取りを活かしながら、画一的ではない、趣の異なる居室設定となっている。馴染みの家具や家族の写真、手作り作品の飾りつけ等、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印は大きく見やすく張り出し、また玄関入り口は段差を少なくし履物を履きやすい作りとし、リビングの壁は作品等で飾り付けし親しみやすい雰囲気作りをしている。		